

学校運営計画（4月）

評価（3月）

学校運営方針	日本国憲法、教育基本法に則り、自律心や創造性を培い、心豊かで責任感あふれ、自ら学ぶ意欲を持ち、社会の変化に主体的に対応できる工業人の育成に努める。		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
本校は、創立111年目の歴史と伝統を誇る県下でも屈指の工業高校である。就職率100%、国立大学進学者等を含め就職・進学ともに安定した進路実績がある。このことは、教育目標にある骨太の工業教育を永年に亘り実践してきた歴代校長以下、本校職員の実践が奏功、かつ有為な社会人として卒業生が活躍してきたことの賜物である。しかし、浮朝地区をはじめ地域の少子化に伴い、毎年定員割れ等の課題がある。本年度、本職を含めた全職員で「明るく、楽しく、元氣良く」を合言葉に、課題解決に向けて具体的方策を検討し実践していく。	就職率100%の維持と進路内容の充実を図る。	・充実した授業(アクティブ・ラーニング)を展開することで、生徒の学力・技能の養成に努める。 ・キャリア教育を充実させ、生徒の進路意識を高める。 ・資格取得や基礎学力の育成のため、指導体制を強化する。	
	テクノボランティア（実習の成果を生かした地域貢献・社会貢献活動）の拡充を図る。	・「ものづくり教室」やテクノフェスタ等のテクノボランティアで確実な成果を上げる。 ・「テクノボランティア」活動の活発化と、その内容の充実を図る。 ・ものづくり部の指導体制の確立と活動の充実を図る。	
	ものづくりを通じた人づくりを推進する。	・ものづくりは人づくりの観点から、挨拶指導や身だしなみ指導等を徹底する。 ・幅広い人づくりを推進するため、部活動を充実させる。 ・教員がしなやかな人権感覚をもち、いじめ撲滅等に向けた人間力の育成を行う。	
	広報活動を充実させ、地域に信頼される学校づくりを行う。	・広報活動の分析を行い、効果的な広報活動を展開する。 ・テクノボランティアとともに地域貢献活動の推進（柔軟な生徒派遣）を行う。 ・ホームページの更なる充実と、中学校・塾へ本校理解を図り、地道な広報活動を展開する。	

A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題		
教科指導	学習習慣の確立を図る。	学習環境の整備と授業規律を徹底することで、意欲的な学習態度の育成に取り組む。 朝課外授業や考查前学習会、資格取得を通して、学習習慣の定着と基礎学力の向上に取り組む。 出席統計調査を実施・活用し、基本的生活習慣の確立に取り組む。	B A B	A	・学習環境の整備と授業規律を徹底し、生徒の学習意欲を喚起することで日々の授業を充実させる。 ・アクティブ・ラーニングの視点による授業改善を推進するとともに、学習指導と評価の一体化を図り、生徒の学習意欲の向上と学習内容の確実な定着に取り組む。 ・環境デザイン科のコース分けに伴い、授業実施のための環境整備に取り組む。 ・担任、学年や保健課と連携を密にして生徒の状況を的確に把握し、個に応じた支援に組織的に取り組む。	
	授業改善を通じた確かな学力の定着を図る。	アクティブ・ラーニングの視点による授業改善に取り組む、確かな学力の定着に取り組む。 観点別評価を通して、授業改善に取り組み、指導と評価の一体化に取り組む。 授業評価を通して、生徒の実態を把握し、授業改善に取り組む。	A B A			
	不登校および中途退学者の防止に関する取組の充実を図る。	成績改善指導や学期毎の補講・追試を通して、個に応じた学習支援に取り組む。 教科担当者会や学年会、生徒サポート委員会で生徒の実態を把握し、適切な生徒支援体制の構築に取り組む。	A A			
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。	全職員による挨拶指導や身だしなみ指導を実施し、端正な服装と自律性ある態度の育成に取り組む。 校内外の巡回指導を実施し、教員間や保護者、地域との情報を交換・共有することで生徒の実態を把握し、規範意識の醸成に取り組む。	A A	B	・全職員による挨拶指導や身だしなみ指導など日々の指導により生徒は落ち着いた学校生活を送ることができた。来年度も全職員での生徒指導を目標にしていきたい。 ・体育大会やテクノフェスタでは、3年生がリーダーシップを発揮し意欲的に取り組む姿が見られた。準備期間の短縮や準備に不備があり、各科各学年への負担が大きくなった。来年度は早期からの計画・準備、効率化を図ってきたい。 ・交通違反や交通事故は数件発生しているが、年々減少傾向にある。来年度はより具体的な交通安全指導に重点を置いて指導していきたい。 ・部活動加入率が年度初めは高い数値を出しているが年度末になると下がっている。定着率の向上と部活動活性化が来年度の課題である。	
	学校生活の活性化を図る。	毎週月曜日に部活動の日を設定することで生徒と教員間のコミュニケーションを充実し、定着率向上に取り組む。 学校行事に積極的な参加を促し、体験活動を通して自己存在感を高めることができるよう支援する。	B A			
	交通安全教育の充実を図る。	交通安全教室、二輪車安全教室等を通して、交通安全や交通ルールに関する意識の向上を図り、交通事故発生0に取り組む。	B			
	いじめの撲滅に取り組む。	全職員で「学校いじめ防止基本方針」についての共通理解を図り、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 学校生活アンケートを分析して実態を把握し、適切な生徒支援体制を整える。	B A			
進路指導	進路希望を実現させる	各科・各教科と連携して、採用試験での1次合格者を85%以上にする。 最新の進路情報を適宜提供する。 進路先との良好な関係を保つと共に、新たな進路先を開拓する。	A A A	A	・就職希望者の1次合格率が91.5%、進学希望者の1次合格率が94.7%と、とても良い結果を残すことが出来た。また、新たな進路先を開拓するとともに内定も頂いた。 ・企業や大学等との面談内容を文書で提供することが出来た。 ・各部署と連携して進路や学校生活全般の面談の充実を図ろうとしたが、計画が後手に回ってしまい三者面談に組み込んで行ってもらった。次年度は計画的に行いたい。 ・インターシップに関しては、受け入れ企業や本校職員の協力もあり成果を挙げることが出来た。 ・生徒の進路指導室利用の頻度も向上しており、進路意識の育成も出来ている。	
	基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着を図る	基礎学力の定着を図るために、朝課外を充実させる。 朝課外や資格の指導を利用して基本的生活習慣を確立させる。 安定した学校生活を送れるように、各担任や教務および生徒指導等と連携して面談を充実させる。	B B B			
	キャリアプランニング能力の育成を図る	インターシップを通して職業観や勤労観が養われるように、事前・事後指導を充実させる。	インターシップや実習等を通して、様々な課題を処理し解決することが出来る能力を育成する。 企業や上級学校の情報等を適宜提供し、個々に応じた生き方を意識させる。			A A A

評価項目	具体的目標	具体的方策				
研 修	一人ひとりの生徒の学習意欲を喚起して、学力向上につながる『わかる授業』をめざした授業研究を行っていく。	授業担当者は、3年に1回以上は研究授業を実施し、1年に1回以上は研究授業を参観する。	B	B	A	研究授業を12月までに終了できなかった。また、示範授業も誰がいづやるか（複数ならその順序）を庶務と連携して計画立てておく。 研修会は恒例のものだけでなく、新しい研修も実施できた。この方向で研修のニーズに合ったものを行う。 研究紀要は内容精選を図りながら作成予定であるが、原稿や資料の収集、整理を早くから正確にする必要がある。
		校内研究授業は12月までに終了する。	B			
		指導主事を招いての『校内研究授業』を計画し、学校全体として参観、合評会を運営する。	A			
		新転任オリエンテーションや専門研修（校外研修）の充実を図る。	A			
教育情報	生徒募集につながるホームページを目指し、充実を図っていく。	適切な時期と内容を検討し、年間5回職員研修を行う。	A	A	A	ホームページの更新は迅速にできた。トップページデザイン更新について各部各課に浸透・定着を図っていく。校務ネットワークの更なる活用を推進する。
		研究紀要の内容精選を図り、使いやすいうものに改めていき、三月に配布する。	B			
		広報課と連携し、生徒募集につながる魅力あるホームページ作成に取り組む。	A			
		各部・各課との連携を深め、ホームページ更新の迅速化を図る。	A			
保 健	全職員との連携を図った保健業務を行う。	各部・各課・学級担任・部活動顧問と連携し、個人情報の保護を確実に行うよう取り組む。	A	B	B	保健・特別支援教育に関しては担任・保護者と連携し情報を共有させるだけでなくその解決を目指す。また部活動中の監督注意を徹底させ、安全に配慮し、事故や怪我を未然に防ぎたい。また委員会活動をより活発にし、生徒・職員の理解、意識向上を図ることにより、校内美化・ゴミの分別・減量に努める。
		各部・各課と連携し、校務ネットワークの活用が十分機能するように取り組む。	A			
		パソコンやネットワークのトラブルに迅速に対応できるように体制を整える。	A			
		課内での共同作業の時間を確保し、協力しながら業務を行い作業効率を上げていく。	A			
庶 務	各種行事や取り組みを円滑に遂行する。	保健室来室生徒への適切な対応と担任との連携に努める。	B	A	A	・効果的な中学校への広報活動の実施・体験入学を2回実施する。 ・久留米以南の中学校に対する本校の認知度をアップさせる。 ・小学校への広報活動（出前授業、体験教室）等を教務、工業教育部と連携しながら進める。 ・PTAとの密な連携および行事の精選 ・同窓会や教育振興会との連携を行なう。
		特別な支援を必要とする生徒の把握と職員間の情報の共有、及び専門機関との連携を図る。	B			
		授業や学校行事、部活動中の安全に配慮し、怪我や事故の防止に努める。	B			
		日常の清掃活動の徹底を図り特に教室、トイレ、窓などの美化に努める。	B			
広 報	地域・保護者、同窓会との協力関係を強め、学校の活性化につなげる。	美化コンクールを年3回行い、美化委員会活動をより自主的で、活発なものにする。	B	A	A	積極的に新しいものを取り入れる広報活動に努めるも、計画性に乏しい面があった。年間を通じて科、教務等の連携を図り、計画的でより効果的な広報活動に努める。 中学生のみならず、もっと中学生の保護者へ本校や工業高校の魅力アピールできる機会や広報誌の作成に努める。
		職員・生徒共にごみの持ち帰り、分別をより徹底させ校内のゴミの減量をめざす。	B			
		式典、全校集会などでの生徒の聴く態度を育てる。	A			
		教務、広報と連携し、中学校訪問や体験入学で本校の魅力中学生に伝える。	A			
図 書	図書室の環境整備および図書資料の充実を図る。	各部署との協力体制および情報共有を行う。	A	A	A	新入生の図書館オリエンテーションは効果的に行うことができた。図書委員会の人員を増やし、生徒の自主活動として活性化させている。それにより、「図書館だより」を定期的に発行することや広報活動に力を入れ、昨年度より全学年で貸し出し冊数を増やすことできた。筑後地区の図書研修会においては委員全員で環境整備や広報活動に取り組むことができた。館内をわかりやすいレイアウトにし、新しいコーナーを作った。次年度に向けて、古い書架や図書資料の更新を継続する。また、視聴覚機材についても、教育活動を充実させるために事務担当者で連携をし更新を図る。
		学校通信を年間15号以上発行する。学校の様子を保護者に周知する。	A			
		PTA関係行事（総会、懇談会、講演会、あいさつ運動など）の参加者を増やす。	A			
		同窓会、教育振興会との連携を強化する。	B			
第1学年	規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立とともに「わたしたち」を意識した行動の定着を図る。	中学校や塾への広報活動を計画的に行う。	A	A	A	・時間を意識した行動や集団における行動を継続的に指導することで、基本的な生活習慣の確立や学習に取り組む姿勢の定着を図る。 ・学校行事等での個人の役割を意識し、責任感や所属感、連帯感を感じることが出来る活動を充実する。 ・1年後には進路を考えて具体的に取り組めるよう、インターンシップの事前・事後指導を充実する。
		中学生や保護者が進路決定の際に望む情報の分析に努める。	A			
		ホームページや広報誌などの情報発信を計画的に行い、丁寧に本校の魅力が伝わるよう努める。	A			
		体験入学を通じて、中学生や保護者に本校の魅力をもっと理解できる計画・内容の向上に努める。	A			
第2学年	3年後を見据えた系統的な進路指導を行う。	各科、進路、教務と連携を図り、効果的な広報活動が展開できるように努める。	B	A	A	・時間を意識した行動や集団における行動を継続的に指導することで、基本的な生活習慣の確立や学習に取り組む姿勢の定着を図る。 ・学校行事等での個人の役割を意識し、責任感や所属感、連帯感を感じることが出来る活動を充実する。 ・1年後には進路を考えて具体的に取り組めるよう、インターンシップの事前・事後指導を充実する。
		次年度以降の計画・立案がスムーズに展開できるよう業務のルーティン化に努める。	B			
		図書資料を精査、拡充し、生徒の学習活動に対応する。	A			
		館内美化、図書利用マナー向上に努め、利用しやすい図書環境を提供する。	A			
第3学年	生徒が主体的に取り組むことができる体制を確立する。	図書委員会の、校内および校外活動を活性化させる。	B	A	A	・時間を意識した行動や集団における行動を継続的に指導することで、基本的な生活習慣の確立や学習に取り組む姿勢の定着を図る。 ・学校行事等での個人の役割を意識し、責任感や所属感、連帯感を感じることが出来る活動を充実する。 ・1年後には進路を考えて具体的に取り組めるよう、インターンシップの事前・事後指導を充実する。
		定期的な視聴覚機器の更新を行い、教育活動に対応する。	A			
		視聴覚機器の維持管理を日頃より行い、利用しやすい視聴覚機器環境を提供する。	B			
		放送委員会において、各種学校行事の放送機器運用を適切に行う。	A			
第3学年	進学・就職ともに合格率100%を達成する。	「時間」を意識した行動や礼節を重んじる態度の育成に、学年全体で取り組む。	A	A	A	・時間を意識した行動や集団における行動を継続的に指導することで、基本的な生活習慣の確立や学習に取り組む姿勢の定着を図る。 ・学校行事等での個人の役割を意識し、責任感や所属感、連帯感を感じることが出来る活動を充実する。 ・1年後には進路を考えて具体的に取り組めるよう、インターンシップの事前・事後指導を充実する。
		個人面談や学年集会時での学年所属の先生方による講話を通して、信頼関係の構築を図る。	A			
		職員間の連携を図り、生徒の情報を共有し、適切な指導を心掛ける。	B			
		2年生によるインターンシップ報告、3年生による進路状況説明を行うことで、系統的な進路指導を行う。	B			
第3学年	即戦力となる人材を育成する。	HR活動での進路室ツアー、SPI、求人票の見方等についての指導を行う。	A	A	A	・時間を意識した行動や集団における行動を継続的に指導することで、基本的な生活習慣の確立や学習に取り組む姿勢の定着を図る。 ・学校行事等での個人の役割を意識し、責任感や所属感、連帯感を感じることが出来る活動を充実する。 ・1年後には進路を考えて具体的に取り組めるよう、インターンシップの事前・事後指導を充実する。
		三者面談や個人面談を通して、生徒が目標を立て、計画的に取り組めるよう指導を行う。	A			
		学年集会時の出欠点呼、号令、進行などを学年進行係が行う。	A			
		部活動や修学旅行に向けてリーダーを育成する。	A			
第3学年	進学・就職ともに合格率100%を達成する。	2学年として、所属感を高め、お互いを認め合える集団を目指す。	B	A	A	・時間を意識した行動や集団における行動を継続的に指導することで、基本的な生活習慣の確立や学習に取り組む姿勢の定着を図る。 ・学校行事等での個人の役割を意識し、責任感や所属感、連帯感を感じることが出来る活動を充実する。 ・1年後には進路を考えて具体的に取り組めるよう、インターンシップの事前・事後指導を充実する。
		3者面談や個人面談を行い、きめ細かな指導を行う。	A			
		インターンシップや工場見学を通じ、職業観を養う。	A			
		進路ガイダンスやオープンキャンパスに積極的に参加させる。	B			
第3学年	進学・就職ともに合格率100%を達成する。	生徒・保護者との面談、クラス懇談、進路説明会を実施し進路希望先を決定する。	A	A	A	・時間を意識した行動や集団における行動を継続的に指導することで、基本的な生活習慣の確立や学習に取り組む姿勢の定着を図る。 ・学校行事等での個人の役割を意識し、責任感や所属感、連帯感を感じることが出来る活動を充実する。 ・1年後には進路を考えて具体的に取り組めるよう、インターンシップの事前・事後指導を充実する。
		早期課外、夏季課外を通して、学力の充実・面接対策を行う。	B			
		担任団と進路指導部、各学科との連携を密にし、情報の共有の努める。	A			
		生徒が主体となって集会等の整列・点呼・進行を行う。	A			
第3学年	進学・就職ともに合格率100%を達成する。	体育大会を通して生徒のリーダーシップを育む。	A	A	A	・時間を意識した行動や集団における行動を継続的に指導することで、基本的な生活習慣の確立や学習に取り組む姿勢の定着を図る。 ・学校行事等での個人の役割を意識し、責任感や所属感、連帯感を感じることが出来る活動を充実する。 ・1年後には進路を考えて具体的に取り組めるよう、インターンシップの事前・事後指導を充実する。
		生徒研究発表会やテクノフェスタを通して専門性を活かした学習に取り組む。	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策				
工業教育	魅力ある学科づくりを行う。	学科の教育内容の充実を図る。	A	A	A	各学科で校内外問わず積極的に研修会等へ参加し指導力が向上することで生徒たちにも還元できたと思われる。 テクノボランティア、出前授業などを通して昨年同様地域への貢献もできており、PR活動にも繋がったと思われる。次年度もこのような地域に根差した活動を続け、地域に貢献する学校であり続けることで生徒獲得数増へ繋げていきたい。
		教育内容充実のための施設教材などの教育環境整備を行う。	A			
	教員の指導力向上のため、研修会等への参加を積極的に行う。	A				
	テクノボランティア、地域や中学校へのPR活動を推進する。	テクノボランティアを充実させ、地域貢献を行う。 出前授業、地域の活動等に積極的に参加し、学校の理解、PRを行う。 各学科のホームページの充実を行い、最新の出来事等を載せるなど、わかりやすく興味・関心を持たれる内容とする。	A A A			
建築科	基本的な生活習慣の確立を図る。	挨拶・身だしなみ・時間厳守・提出物期限の厳守等の指導の徹底を図る。	A	A	A	コンペでは、昨年に続き多数入選することができた。また、計算技術検定では全員合格、製図技術認定試験でも昨年度以上の合格を果たした。今後も資格取得やものづくりの面も充実した指導を図ってきたい。 進路では、先生方の協力で充実した面接指導を行い、結果的に就職では、ほとんどが一次合格と早い段階で進路決定することができた。今後も職員協力のものでも進路実現に向けた取り組みを継続して行ってきたい。 今後も職員間での情報交換や意思疎通を密にし、指導を要する場面や生徒には早い段階で適切に対応してきたい。
		実習等の授業では、環境美化・環境整備に努め、規律や安全面の指導徹底を図る。	A			
	担任や保護者との連携を図り、家庭での規則正しい生活の啓発を図る。	A				
	進路意識の高揚を図る。	インターンシップや現場見学の取り組みを充実させ、進路意識の高揚を図る。 進路実現に向けて全職員が面接指導を行い、進路内容の充実を図る。 生徒並びに保護者へ進路情報を提供し、希望する進路実現を目指す。	A A A			
資格取得・ものづくりの充実を図る。	計算技術検定（3級）の合格率9割、製図認定試験の合格率5割を目指す。 製図、実習、課題研究、ものづくりコンテスト、ものづくり愛好会等の活動の充実を図る。 ものづくりを通して、建築技術・技能の向上を図ると共にテクノボランティア活動を行い、地域貢献及び広報活動に努める。	A B A				
環境デザイン科	基本的な生活習慣を確立し、規則を遵守する態度を育てる。	礼儀や挨拶など高校生としてのマナーを、HRや授業および職員室への出入り等で身につけさせる。	B	B	B	ものづくりコンテストや溶接競技大会、校外の活動を充実させることで、達成感を持たせることや帰属意識を高めることができた。今後も、校外での活動を充実させ、広報活動や地域貢献、生徒の自尊感情の向上を図りたい。 ・学校行事において事前・事後指導を充実させ、礼儀や挨拶などマナーを全職員で指導することで、基本的な生活習慣を確立し、規則を遵守する態度を育てたい。 ・コース選択制の導入で、実習・実験・資格試験など学科としての取り組みを見直す良い機会となった。適切な進路選択、早期の進路実現に向けて全職員で取り組んでいきたい。
		実習系の授業で、実習服の正しい着用や授業への遅刻等の指導を、授業前に全職員で行う。	A			
	安全教育を徹底するため、様々な道具や機械の操作方法、および整理整頓などの指導を実習で行う。	B				
	基礎学力の向上に取り組み、資格取得に積極的に参加させる。	マナトレや検定試験などで課外を充実させ、基礎学力をつけさせる。希望制の資格試験を積極的に受験させる。 全員受験の検定試験において、トレース技能（3級）100%、レタリング技能（3級）65%、CAD検定60%を達成させる。 課題研究において、テクノボランティアに積極的に取り組み、広報活動へと繋げる。	B B B			
進路意識を高め、進路実現に努める。	3年生は、進路指導部と連携し、進路先を早期に決めさせ、第1希望の合格率を高める。 2年生は、インターンシップや工場見学などの体験などを通して、適正業種を知り適切な進路選択につなげる。 1年生は、体験実習・技術基礎を通じて、それぞれの適正業種を考えたコース選択につなげる。	A A A				
機械科	社会人として必要な基本的な生活習慣や礼儀作法を身につけられるよう指導の充実を図る。	各学年ともに、皆勤・精勤の合計を80%以上を目指す。	A	A	A	挨拶・風紀面等の基本的な生活習慣は、ある程度は身につけさせることができた。ただ一部の生徒においては、皆勤や精勤に繋がる習慣が定着せず、学年によっても差があり、次年度の課題となった。基本的な生活習慣の定着がなされない一部の生徒は、提出物や資格取得、朝課外の出席状況にも結果として表れた。資格取得に関しては、今年度は技能士や溶接技能者等の難易度の高いものを含め、昨年度を超える取得数となった。その結果、福岡県溶接技術競技会の上位入賞やジュニアマイスター数などに反映された。本年度、担任と学科と協力して、一定の成果はなされた。次年度以降も、できる限り協力して、生徒の為となるきめ細かな指導に努めていきたい。
		各授業や実習、HRにおいて挨拶や返事などの徹底を図る。	A			
	各職員室や機械科の準備室での入退出時に、服装の確認と礼儀作法を徹底する。	A				
	実習等で連絡・報告・相談の徹底と服装・安全作業・提出物など、あたり前のことができるように指導する。	A				
進路希望実現に向けて、基礎学力の向上を図り、個々に対応した進路指導を行う。	朝課外の充実を図り、出席率100%を目指す。 きめ細かな面接指導と希望進路先に関する知識や情報を収集し、個々に応じた手厚い指導に努める。 生徒の関心・意欲を引き出す授業を計画し、各科目の中で進路に関連する内容も組みこむように心がける。	B A B				
資格試験やものづくりの指導を通して、魅力ある人物を育成する。	各科目の目標設定の1つとして、各資格試験・検定試験を利用し、ジュニアマイスターの奨励に努める。 ものづくりコンテストや溶接競技大会等の指導を徹底し、上位入賞を目指し、高い技術力を身につけさせる。 実習等で身につけた技能・技術を、ものづくりを通して、喜びや楽しさを実際に体験させる。	A A A				
電気科	基本的な生活習慣を確立し、規則を遵守する態度を育てる。	産業現場が求める資質を習得させ、皆勤・精勤80%を目指す。	B	A	A	・精勤皆勤率は79%となり、昨年度より14%上昇する結果であった。欠席、遅刻の生徒指導を担当を中心に、改善の兆しが見える。次年度は精勤皆勤率の更なる向上を目指し、科全体で指導する。 ・第二種電気工事士2年生26名、3年生17名、合計43名で取得率向上した。第一種電気工事士は6名の筆記合格で昨年より4名アップ。高度熟練者による指導や第二種電気工事実技指導を通じ専門教科に対しての意識が高まった。次年度も継続して意識を高める。 ・就職では10月での早期進路実現を行うことができた。来年以降も、生徒の状況をしっかりと把握し、合格率を向上させる。 ・ものづくりコンテスト福岡県大会で昨年度を上回り準優勝。今後も、ものづくりコンテストの強化を行い、優勝を目指した指導を行う。本年度は積極的に出前授業を行い、また、テクノボランティアを実施し、学校のPRを行うことができた。
		日頃より時間の厳守・身だしなみ・清掃・挨拶・言葉使い等の徹底した指導を行う。	A			
	定期的な面談を行い個人に合った学習法を提示し、自宅学習の習慣化を図る。	A				
	第2種電気工事士の80%取得を目指し学習活動を展開していき、さらに上級の資格にも積極的に挑戦させる。	A				
資格取得率の向上と進路意識の高揚を図り、社会人として通用する資質を身につけさせる。	インターンシップや工場見学を通して職業観や労働観を養い、事前・事後指導を重視し自己の適性と職種を理解させる。 企業と連携し、実践的な講座を2回以上実施し、企業情報収集能力の育成を行い、離職しない進路決定率100%を達成する。	A A				
ものづくりを基幹とした技術者集団を育成し、テクノボランティア活動を通じた社会貢献を定着させPR活動へと繋げる。	ものづくりに対する指導の充実とものづくりコンテストの入賞を目指す。 一人暮らしや高齢者家庭に対してのテクノボランティア活動を通して地域貢献を行う。 中学校訪問、出前授業の機会を活用し、市場調査を実施するとともに電気科のPRに努める。	A A A				
材料技術科	基本的な生活習慣の確立を図る。	学科のすべての活動の中で、服装、礼儀、挨拶等を指導し社会性を身につけた生徒の育成を行う。	A	A	A	生徒に、挨拶や服装等の基本的な生活習慣の醸成ができた。次年度も継続して確固たるものにした。技能検定では、金属熱処理3級で、県下の工業高校生で初の合格者を11名だけせた。しかし、資格取得を全体的に振り返ると十分な結果を出せなかった。一人体制での資格指導が多かった。職員の実習組み合わせや持ち替えを促進して、職員の知識や技術を向上させるとともに、複数職員で指導できる体制を築きたい。テクノフェスタや朝倉市民祭等では、ものづくりの楽しさを生徒に実感させることが出来た。体育大会でも3年生がリーダーシップを発揮した。生徒が主体的に活動できる場を増やし、達成感や自尊感情をさらに高めたい。
		科会等で日頃より生徒の状況を報告し、全員で生徒を指導する体制を作る。	A			
	実習においては、安全な操作方法や整理整頓を徹底し、規律の大切さを実感させる。	A				
	マナトレの活用を徹底するとともに、放課後や考査前学習会で専門教科指導の充実を図る。	B				
学力向上に努め、資格取得の推進および合格率の向上を行い、進路実現につなげる。	全員受験する基礎製図検定、QC検定、危険物乙種4類の指導を徹底し合格率70%以上を目指す。 国家資格である技能士や溶接評価試験の合格者を増やし、ジュニアマイスター認定者10名以上を目指す。	B B				
ものづくりを通しての生徒理解および地域貢献を行う。	ものづくりコンテストや溶接競技大会で上位入賞を目指す。 課題研究や朝倉市民祭、出前授業において、ものづくりの楽しさを伝え、帰属意識の向上をめざす。 テクノボランティアを通し生徒に達成感を持たせ、自尊感情の向上を目指す。	B A A				